



エンバーゴ（解禁時間）：2025年3月13日（日本時間）17:25

## ホルベア賞の受賞者はインド系の文学理論家、運動家である

（ベルゲン、ノルウェー、2025年3月13日）

2025年のホルベア賞の受賞者が決まりました。インド系のガヤトリ・チャクラヴォルティ・スピヴァク教授は、文芸学と哲学における画期的な研究によって選ばれました。

ホルベア賞は、毎年人文科学、社会科学、法学及び神学の分野への顕著な貢献をした研究者を授与されます。ホルベア賞の賞金は600万ノルウェークローネ（約8400万円）、2003年にノルウェーの立法府に設立されました。スピヴァク教授は6月5日にベルゲン大学で式典の中で賞を受け取ります。

ガヤトリ・チャクラヴォルティ・スピヴァク教授はコロンビア大学でユニバーシティ・プロフェッサーである。現代世界の一流の知識人と評されています。文学理論家、フェミニズム評論家、人文学と社会学分野に70年代以降大きな影響を与えました。

### 周縁化されていた声の運動者

スピヴァク教授の研究は世界史が植民地主義や帝国主義によって形成され、その2つの主義は現代社会にも影響を与えていることを示してきた。研究の焦点は「サバルタン」、つまり声が沈黙させられ、無視され、支配的な勢力図から排除され、周縁化され、抑圧されている人々である。スピヴァク教授は特に周縁化されている女性に焦点を当てている。

スピヴァク教授がポストコロニアル理論の仕事において中心的な位置を占めている著作は『サバルタンは語ることができるか』（1988, 上村忠男訳 みすず書房, 1998）である。そこでスピヴァク教授は植民地インドの知識生産に女性の声が締め出されていたことを明らかにして、周縁化されている声はよく沈黙されていることを探っている。スピヴァク教授は代弁と共同決定についての思想にそのように挑戦している。

スピヴァク教授は大学以外でも公的知識人や活動家として知られている。四十年以上にわたり、スピヴァク教授は諸国で周縁化されている人々と民主教育を進め、特にインドの貧困な方面で不可触民や部族に初等教育を提供する。スピヴァク教授はアフリカ諸国でも開発計画によって貧困問題を戦い、その活動を通じて教育制度に地元語と地方の文化を取り入れ、女性の権利を強化している。

## 隠れた前提に挑戦する

スピヴァク教授はフェミニズム理論分野で先駆者であり、教授の欧米フェミニズムへの批評はジェンダーや階層がさまざまな背景に絡み合うことを示してきた。教授はジャック・デリダの『グラマトロジーについて』を英訳し、長い序文をつけたことで注目され、「脱構築」という言語中心の批評理論をより広い読者層に広めていた。この理論通し、教授はテキストや考えを分析し、理解が形成されている前提を探っている。

スピヴァク教授9冊の著書を著し、そして、多くの著書を翻訳していた。著書は20言語に翻訳されている。『ある学問の死——惑星思考の比較文学へ』において、スピヴァク教授は比較文学の伝統的な境界に挑戦していると同時に、社会正義を強化する姿勢を持っている。「グローバリゼーション」より「地球性」の用語を使うことで、スピヴァク教授は人間の共通でも、同じような生活条件を強調している。

受賞者のその他の重要な著作には、文化としての他者（鈴木聡・大野雅子・鶴飼信光・片岡信訳、紀伊國屋書店、1990年、原題: *In Other Worlds: Essays in Cultural Politics*, 1987）、ポストコロニアル理性批判——消え去りゆく現在の歴史のために（上村忠男・本橋哲也訳、月曜社、2003年、原題: *A Critique of Postcolonial Reason: Towards a History of the Vanishing Present*, 1999）、*Outside the Teaching Machine*（Routledge, 1993）、*An Aesthetic Education in the Era of Globalization*（2012）、*Ethics and Politics in Tagore, Coetzee and Certain Scenes of Teaching*（2018）があります。

## 学びの技

スピヴァク教授は人文学が人間に学びの価値を教えられ、知識生産だけではないことを強調することによって、その学問の重要性を示している。「『知識を単なる知的財産として使うことができるだけでは、学ぶことの実践において訓練を受けていなければ、民主的で公正な社会には繋がりません』と彼女は言いました。『これは、あなたが接するものが単なる知識の対象ではなく、学びの主体でもあることを学ぶことです。』」

ホルベア賞選考委員会長であるハイケ・クリーガー教授は、スピヴァク教授がふさわしい受賞者だと述べています。選考委員会長は次のように言っています:「スピヴァク教授は欧米思考の核心を批判的に分析しており、その分析的な仕事がなければ、批判的な学問は成り立たないし、支えられることもありません。」

## 受賞・栄典

2012年第28回京都賞思想・芸術部門を受賞。

報道機関向けの写真、伝記、ホルベア賞選考委員会の発表およびホルベア賞に関する情報はこちら: <https://holbergprize.org/about-us/pressroom/>（英文）

## 窓口:ホルベア賞事務局

コミュニケーションアドバイザー オレ・サンモ氏 (Ole Sandmo)

電話: +47 98 0018 78

[ole.sandmo@uib.no](mailto:ole.sandmo@uib.no)

報道機関の専門家窓口:

准教授 カーリ・イエーガステット氏 (Kari Jegerstedt)

[kari.jegerstedt@uib.no](mailto:kari.jegerstedt@uib.no)